

ひしだしゅんそう おちば 菱田春草「落葉」について

1 菱田春草（明治7(1874)年～明治44(1911)年 長野県飯田市出身）

- ・日本画の革新を目指した岡倉天心のもとで、横山大観らとともに日本美術院の中核として活躍。短い生涯の間に数多くの傑作を発表し、近代日本美術史に大きな足跡を残す。
- ・名作「落葉」のほか、「王昭君」、「賢首菩薩」「黒き猫」が代表作。明治42（1909）年10月に「落葉」（永青文庫版）を第3回文展に出品した2年後に36歳で^{ようせい}天逝。

2 「落葉」

- ・無限の空間のうちに豊かな奥行きと広がりを示す代表作。「落葉」を主題とした作品は未完成のものも含め5点描かれているが、六曲一双の屏風に描かれた大作（完成品）は、福井県立美術館のものと永青文庫（重要文化財）のものとの2点である。

＜制作順序論争＞

- ・福井県立美術館の「落葉」と永青文庫の「落葉」の制作順序については、長い間、美術界の論争になっていた。本年9月、菱田春草の生誕地・長野県飯田市において「製作控帖」が発見され、論争に決着がついた。
- ・「製作控帖」には明治42(1909)年9月～明治44(1911)年5月に受注した252件の受注年月日、画題、サイズ、代金、依頼者などが記され、福井県立美術館所蔵の受注は、明治42(1909)年11月で永青文庫より後だということが判明した。
- ・これにより福井県立美術館版は、「落葉」連作の中で装飾性を追求した到達点ともいえる重要作品であることがわかった。

①滋賀県立近代美術館 二曲一隻（各 152×164 cm）

②未完 六曲一双屏風（各 149.7×360.2cm）

③永青文庫 六曲一双屏風（各 157×362cm） 文展出品・重要文化財

④茨城県近代美術館 二曲一双（各 152.8×151.8 cm）

⑤福井県立美術館 六曲一双屏風（各 154×354.3cm）

3 「菱田春草展」（東京国立近代美術館）

- ・菱田春草生誕140年を記念して開催されている「菱田春草展」（9月23日（火）～11月3日（月・祝） 主催/東京国立近代美術館、日本経済新聞社、NHK）において、10月7日（火）～11月3日（月・祝）の期間（25日間）に、福井県立美術館所蔵の「落葉」が展示されている。
- ・10月8日（水）には、天皇皇后両陛下が同展をご訪問され、「落葉」連作に描かれている植物をお尋ねになるなど熱心にご観覧された。

※県内小学生を対象とした鑑賞会

期間：12月2日（火）～5日（金）

場所：県立美術館

対象：県内小学校37校（1,396人）見学予定